



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：東部州でシーア派を狙ったテロ事件が発生

11月3日夜、サウジアラビア東部州ハサーのダールワ村においてテロ事件が発生、少なくとも5人が死亡し、9人が負傷した。サウジ内務省の発表によると、3人の覆面の男が車両により現場まで乗り付け、マシンガンやピストルなどを市民に向けて発砲し、逃走した。

翌4日、内務省はリヤード、ハサー、フバル（コバル）などで捜査を実施した。リヤード北部のブライダでは、事件捜査中の警察官と犯行に関与したと見られる武装勢力とが銃撃戦になり、警察官2人と容疑者2人が死亡した。また、同事件に関連し、計6都市から15人を拘束したことも内務省から発表されている。Saudi Gazette 紙は、治安筋の情報によると、事件を起こしたグループの指導者はサウジ国籍であり、イラクとシリアでの戦闘に参加していたと報道した。

評価

事件の発生したサウジ東部州のハサーは、サウジのシーア派住民が多く集まる主要都市の一つである。また、事件が発生した11月3日は、シーア派にとって最も重要な宗教的行事であるアーシューラーの日であった。まだ実行犯の動機は明らかになっていないものの、シーア派を狙ったスンニ派による犯行の可能性が高いと見られる。

サウジ政府の対応は早く、翌4日には大規模な捜査に踏み切った。拘束された者のなかには誤認逮捕者が含まれている可能性もあるが、政府としてテロ事件に断固とした態度を示すことで、過激主義を否定するとともに、宗派对立が国内で発生することを抑える意図があると思われる。本来このようなテロ事件に関与することがない最高ウラマー評議会事務総長のファハド・サアド・マージド氏から事件を非難する声明が発出されたのも、サウジ宗教界として同事件を非難することで、宗派間の対立ではないことを政府として強調しているのではないだろうか。

ここ1カ月余り、東部州では治安の不安定化につながりかねない事件が連続して発生しており（[「サウジアラビア：東部州の治安情勢が不安定化」『中東かわら版』No. 146（2014年10月2日）](#)、「[サウジアラビア：シーア派導師への死刑判決を受けて東部州でデモが発生」『中東かわら版』No. 156（2014年10月16日）](#)を参照）、引き続き情勢の変化には注意を払う必要がある。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799